

第6学年*組 国語科学習指導案

指導者 遠井 正修

授業の視点	自分の考えを深めたり、広げたりするために交流の仕方を工夫した授業
-------	----------------------------------

1 単元名 作品の世界を深く味わおう 「やまなし」

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では宮沢賢治作品の「本のショーウィンドウをつくる」ことを、単元を貫く言語活動として位置付けた。本単元で取り上げる「本のショーウィンドウ」とは、作品を推薦するための立体的なパンフレットのことである。この中には、あらすじ、作者の紹介、お薦めの場面や表現、作品に対する作者の思いなどのコーナーを設ける。そして、それらの項目をまとめるために、優れた叙述について考えたことや読んで考えたことを交流する。こうした手立てを用いることで、本単元のねらいとする「C読むこと（2）内容エ・オ」の能力を身に付けることができると考えた。

3 単元について

(1) 児童観

(男子*名 女子*名 計*名 平成*年*月*日実施)			
調査内容			回答内容
4 よくあてはまる	3 どちらかというとあてはまる	2 どちらかというとちがう	1 ちがう
1 物語文を読むことが好きである。			*
2 物語文を読むときに、主人公や登場人物の気持ちを想像しながら読んでいる。			*
3 物語文を読むときに、おもしろい表現に着目して読んでいる。			*
4 物語文を読むときに、作者の思いや願いを考えながら読んでいる。			*

本学級の児童は、進んで読書活動に取り組んでいる。特に文学的文章を読むことが好きで、叙述に即して心情を想像しながら読んでいる。本年度は、教材「カレーライス」で、心情の変化や葛藤を、人物相互の関係や情景をもとに読み取り、登場人物に自分を重ね合わせながら読むことができた。しかしその一方で実態調査から分かるとおり、表現のおもしろさや作者の思いを考えながら読むことを苦手としている。そこで本単元では、読み取ったことを本のショーウィンドウという形に表現し、考えたことを交流する活動を取り入れていく。

(2) 教材観

「やまなし」は、かにの親子の目から見た、小さな谷川に起こる出来事を描いた作品である。この作品は、「五月」と「十二月」という2つの幻想的な世界が対比的に描かれている。そこに登場する「かわせみ」と「やまなし」などの対比をもとに、叙述に基づいた読解を行い、物語の中に恐怖や希望、生き物の生と死が描かれていることに気付くことができる。また、「やまなし」は比喩表現や擬声語・擬態語など、さまざまな表現が使われているため、優れた叙述を味わいながら読むことにも適している教材である。

(3) 指導観・研究主題に迫るための工夫

「本のショーウィンドウ」づくりをするために、「やまなし」を教材として取り上げる。あらすじや登場人物の相互関係や心情、場面の様子をとらえ、作品中の優れた叙述についての自分の考え等をショーウィンドウにまとめる。さらに「イーハトーブの夢」や作者の他の作品を並行読書することで、作者のものの見方や考え方を知り、作者の思いや願いに迫ることができるようとする。そして、「やまなし」での読み取りの視点を活用し、並行読書した作品を「本のショーウィンドウ」に表現することで、児童相互の交流の場の学習機会とする。

4 単元の目標

- 宮沢賢治やその作品に興味をもち、進んで作品を読み進め、そのよさを推薦しようとする。
(関心・意欲・態度)
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての優れた叙述に着目し、その作品を推薦するために、自分の考えをまとめることができる。
(読むこと)
- 宮沢賢治の作品を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えと比べて広げたり、深めたりすること

(読むこと)

- 作品で使われている比喩表現や擬声語・擬態語など、表現のよさに気付くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・宮沢賢治やその作品に興味をもち、進んで作品を読み進め、そのよさを推薦しようとしている。	・登場人物の相互関係や心情、場面についての優れた叙述に着目し、その作品を推薦するために、自分の考えをまとめていている。	・宮沢賢治の作品を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えと比べて広げたり、深めたりしている。	・作品で使われている比喩表現や擬声語・擬態語など、表現のよさに気付いている。

6 学習計画及び評価規準 (13時間扱い) ○が本時

次 時	学習内容・活動	評 価 規 準		評価方法
		おおむね満足できる状況	観	
一 1・2	教師作成のショーウィンドウを見て、単元のゴールを知るとともに、学習計画を立て、単元の見通しをもつ。	教師作成のショーウィンドウの内容を考えたり、単元計画を立てたりして、単元の見通しをもとうとしている。	関	観察
二 3	「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について感想を交流する。	作者の生き方や考え方を知り、感想を交流しようとしている。	関	観察
4	「やまなし」を読み、初発の感想を書いて交流する。	自分なりに受けた作品の印象を考え、初発の感想をまとめている。	読	ノート
5	情景描写や会話文から「五月」の世界を読み取り、想像図にまとめる。	情景描写やかにの会話から、谷底の様子を読み取り、想像図にまとめている。	読	ノート
6	情景描写や会話文から「五月」の場面でのかにの兄弟の心情を想像し、心情曲線にまとめる。	情景描写やかにの会話から、かにの兄弟の心情を読み取り、心情曲線にまとめている。	読	ワークシート
7	情景描写や会話文から「十二月」の世界を読み取り、想像図にまとめる。	情景描写やかにの会話から、谷底の様子を読み取り、想像図にまとめている。	読	ノート
8	情景描写や会話文から「十二月」の場面でのかにの兄弟の心情を想像し、心情曲線にまとめる。	情景描写やかにの会話から、かにの兄弟の心情を読み取り、心情曲線にまとめている。	読	ワークシート
9	「五月」と「十二月」の場面をそれぞれ一言で表し、比較する。	「五月」と「十二月」の場面をそれぞれ一言で表し、それぞれの月にこめられた作者の思いや願いを考えている。	読	ノート発表
(10)	「やまなし」という作品にこめられた作者の思いを考え、交流する。	作者が作品にこめた思いや願いを考え、友達と交流することで、自分の考えを深めたり、広げている。	読	ノート発表
三 11~13	自分が選んだ作品のショーウィンドウを作り、発表する。	並行読書してきた作品の内容をショーウィンドウに表現し、発表している。	読	作品

7 本時の学習

- (1) 目標
作者が作品にこめた思いや願いを考え、友達と交流することで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
- (2) 本校教育目標との関連
作品にこめられた作者の思いや願いを考え、友達と交流する活動を通して、本校教育目標（目指す児童像）の「学力の向上」を図りたい。
- (3) 準備・資料
ワークシート、振り返りカード、国語辞典、前時までの学習内容の掲示物、宮沢賢治の写真
ホワイトボード、発表用短冊
- (4) 展開

○研究主題との関連

学習活動・内容	指導と援助の留意点と評価(評)
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 宮沢賢治は、なぜこの作品に「やまなし」という題名をつけたのだろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容を掲示物やノートを見て振り返る際、「五月」と「十二月」それぞれの場面の特徴や作者の思いを確認する。 ・課題を確認した後、本時の学習の流れを確認することで見通しをもって取り組むことができるようとする。

3 題名に作者が込めた思いや願いについて、意見を交流する。

(1) 自分の考えを確認する。

(2) グループで話し合う。

(予想される反応)

- ・未来への希望がこめられている。
- ・厳しい自然のなかでも、喜びがあるという思いが込められている。
- ・賢治が目指した、自然とともに生きるという願いがこめられている。

(3) 全体で交流する。

- ①それぞれの考えを発表用短冊にまとめホワイトボードに貼る。
- ②共通点や相似点をもとに、話し合いながら分類する。

4 本のショーウィンドウづくりのために「作品に込めた作者の思いや願い」を簡潔にまとめる。

- 100字以上120字以内
- 2つの段落に分けて書く。
- 一段落目には、作者が作品にこめた思いや願いを書く。
- 二段落目には、そのように考えた理由や根拠を書く。

5 本時の学習を振り返る。

6 次時の学習内容を知る。

友達に紹介したい作品を選び、本のショーウィンドウにまとめよう。

- ・本時の学習課題について、前時までに自分の考えをノートに書いておくようとする。
- ・話し合いの際、自分の考えの根拠を示すことができるよう、根拠となる表現を確認したり、グループでの発表に向けて練習をしたりする時間を確保する。

・話し合いの流れを確認し、発表する際には、根拠となる叙述を示しながら説明するよう助言する。

- ・「自分の考えを深めたり、広めたりするために話し合う」ということを知らせ、話し合いの目的を明確にする。
- ・「やまなし」と「かわせみ」、「十二月」と「五月」など対比関係にある言葉を取り上げ、作者の思いに迫れるようする。
- ・活発に話し合うことができるよう、3・4人のグループで交流するようする。

○友達の考えを聞いて、よいと思った点や自分の考えで変化した所などを聞き、考えを深めたり、広げられるようする。

- ・KJ法を取り入れたワークショップ型で行い、多様な考えを共通点や相似点をもとに、分類してまとめられるようする。
- ・「イーハトーブの夢」を読んで考えた、宮沢賢治の生き方や考え方を関連付けて考えるよう助言し、作者の思いや考えに迫れるようする。

○交流を通して考えたことをもとに、自分の考えを書いてまとめる。

- ・書くための条件を明確に示すことで、適切な文章づくりができるよう配慮する。

(評) 読むこと（観察、ワークシート）

作者が作品に込めた思いや願いについて、交流を通して自分の考えを深めている。

<十分満足できるという状況>

友達の考えを聞き、自分の考えと比べることで、考えを広げたり、深めている。

<努力を要する児童への手立て>

交流する前の自分の考えと、交流した後の自分の考えを比べ、変化したところに注目するよう助言する。

- ・自分に身に付いた力や、交流を通して考えが広まったことについて、振り返りカードに記入するよう知らせる。

- ・並行読書している作品の中から、自分の好きな作品を選び、紹介するために本のショーウィンドウを作ることを確認する。